

熊谷市長、2期目の抱負を語る



熊谷盛廣登米市長(70)が4月30日、2期目の初日として登庁。熊谷市政5年目が始まりました。

熊谷市長は、午前9時に幹部職員など約50人が出迎える中、市役所迫庁舎に登庁。職員から花束を受け取ると、出迎えた職員の祝福の言葉に応えながら庁舎に入りました。

午前9時15分からの就任式では、渡邊誠副市長が市職員を代表し「今年度は、交付税の合併特例が終わり、市として節目の年。厳しい財政状況の中、熊谷市長と共に、一体となって進んでいきたいと思えます」と歓迎の言葉を述べました。

熊谷市長は市の幹部職員を前にあいさつをしました。「本日、登庁する際、緊張を抱えながらも市民の信託に応えるため、きつちりと頑張っていくという4年前に初当選したときの決意を思い返した。改めて市民の皆さんと頑張っていくという強い思いがある」市民と

の交流を重ねていく中で、全ての人が登米市発展へ強い思いを持っていると感じた。市民は市の先行きに対して漠然とした不安があるのではないかと感じている。経済対策や地震、大雨など自然災害への対策、そしてコロナ対策などを引き続き取り組んでいく「病院事業については収支改善の兆しが見え始めた。施設の老朽化も課題として捉えている。教育環境の整備にも悔いを残さないよう取り組んでいく」女性の活躍や若者の定住を含めた移住定住に対する支援についても併せて取り組んでいきたい「主役である市民の皆さんの意見をしっかりと組み込みながら、持続可能で身の丈に合った市政運営を目指していく」と2期目の抱負を語りました。

熊谷市長は、旧津山町長、県議を経て平成29年に初当選。今期より2期目の市政運営となります。任期は4月29日から4年間。

「広報とめ」が全国3位に 全国広報コンクールで評価



日本広報協会が主催する「令和3年全国広報コンクール」で、広報とめ「To Me」が広報紙(市部)の部で、入選2席に選ばれました。これは、特選、入選1席に次いで、全国で3番目の評価になります。

同コンクールは、2年間に発行された全国自治体の広報媒体を対象に実施されました。

入選した2年12月号はA4判44ページ。特集「もくもくと生きる。」は、津山町のもくもくランドを中心に、林業を特集しています。関係者などさまざまな人の声を通して、登米市としてのもくもくランドの在り方を考えました。

審査では「活動する人々の意識、住民との関係性、課題などが詳細に掘り下げられている。市民の表情も良い」「前向きなメッセージが出され、住民と行政が共創して未来に向かう姿が感じとれた」などの評価を受けました。

広報とめは、取材に協力してくれる皆さん、情報を寄せてくれる皆さん、読者の皆さんと共に作っています。これからも皆さんの活動に寄り添い、必要とされる広報紙を目指します。

【問い合わせ】まちづくり推進部まちづくり推進課(広報係)

☎0220(22)2147



【特集】 地域防災力の源

火災予防活動や火災、災害現場での消火、救助活動など、市の安全の中核をなす消防団。近年は、若手団員の入団率の低下などにより、団員数の減少と平均年齢の上昇が問題になっています。今号は、地域の安全、安心に向けた消防団の在り方を考えます。